



写真: デンヨーヨーロッパ

# 2016年3月期 決算説明会

2016年5月20日

**デンヨー株式会社**

# 目 次

---

## I . 2016年3月期決算の概要

上席執行役員管理部門長      兎 澤 俊 哉

## II . 2017年3月期通期の見通しと今後の経営方針

代 表 取 締 役 社 長      白 鳥 昌 一

---

# 2016年3月期 決算概要

# 2016年3月期実績ハイライト(連結)

## ポイント

連結売上高、利益ともに前期を下回る。

(単位:百万円)

	2015年3月期		2016年3月期		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高	52,267	100%	50,419	100%	△1,848	△3.5%
営業利益	5,348	10.2%	4,097	8.1%	△1,251	△23.4%
経常利益	5,757	11.0%	4,494	8.9%	△1,263	△21.9%
当期純利益	3,857	7.4%	3,137	6.2%	△720	△18.7%
設備投資	2,531		1,125		△1,406	△55.6%
減価償却費	999		1,284		285	28.5%
1株当り当期純利益	179.4円		146.8円		△32.6円	△18.2%
R O E	8.6%		6.5%			
1株当り年間配当金	28.0円		30.0円			

# 製品別売上高の動向(連結)

## 概況

1. 発電機は 1,785百万円(4.5%)の減少。
2. 溶接機は 456百万円(8.2%)の減少。
3. コンプレッサは22百万円(2.0%)の減少。

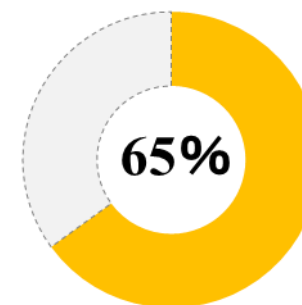
(単位:百万円)

		2015年3月期		2016年3月期		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		52,267	100%	50,419	100%	△1,848	△3.5%
製品別	発電機	40,079	76.7%	38,294	76.0%	△1,785	△4.5%
	溶接機	5,556	10.6%	5,100	10.1%	△456	△8.2%
	コンプレッサ	1,126	2.2%	1,104	2.2%	△22	△2.0%
	その他	5,504	10.5%	5,919	11.7%	415	7.5%

# エンジン発電機(連結)

	2015年3月期	2016年3月期	前期比 増減率
発電機	40,079 百万円	38,294 百万円	△4.5%

- 国内は、大手リース・レンタル会社向けの出荷が減少。
- 海外は、アジア市場及び中近東市場向けが堅調。  
米国市場向けが減少。



可搬式エンジン発電機の国内シェア

※当社調べによる(5年平均)



可搬式発電機



防災用発電機

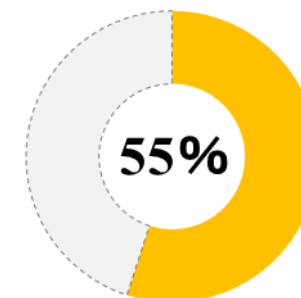
1kVAから1100kVA までのエンジン発電機を製造

- 可搬式発電機  
建設現場、土木工事、災害復旧・復興などの動力源
- 非常用発電機(定置型)  
防災設備やオフィスなどのバックアップ電源
- 電源車など

# エンジン溶接機(連結)

	2015年3月期	2016年3月期	前期比 増減率
溶 接 機	5,556 <sup>百万円</sup>	5,100 <sup>百万円</sup>	△8.2%

- 国内は、TIG溶接機など増加するも、小型溶接機の出荷が減少。
- 海外は、欧州向けが減少。



エンジン溶接機の国内シェア  
※当社調べによる(5年平均)



エンジン溶接機

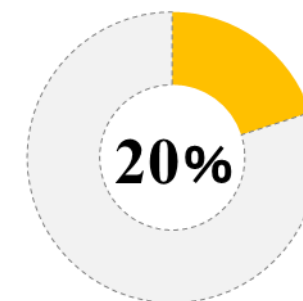
屋外作業の溶接機として当社が日本で初めて開発  
軽量鉄骨溶接用の135Aから重量鉄骨溶接用の500Aエンジン溶接機、  
およびTIG溶接機、CO2溶接機など

- ビルやマンション、橋梁などの鉄骨構造物の溶接
- 石油備蓄タンク、パイプラインなどの重要構造物の溶接

# エンジンコンプレッサ(連結)

	2015年3月期	2016年3月期	前期比 増減率
コンプレッサ	1,126 <sup>百万円</sup>	1,104 <sup>百万円</sup>	△2.0%

- 海外向けは増加するも、国内のリース・レンタル業界向けが減少。



エンジンコンプレッサの国内シェア

※当社調べによる(5年平均)



エンジンコンプレッサ



モータコンプレッサ

吐出空気量1.6<sup>m</sup>³/minから42.4<sup>m</sup>³/minまで製造

- 道路工事のはつり作業、地盤改良工事
- 山岳道路の土砂崩れ防止のモルタル吹き付け工事
- スキー場の人工降雪機用など



## そ の 他(連結)

	2015年3月期	2016年3月期	前期比 増減率
そ の 他	5,504 <sup>百万円</sup>	5,919 <sup>百万円</sup>	7.5%

- 高所作業車、部品等の売上が増加。

### その他の売上

- 高所作業車
- 負荷試験装置
- 部品売上
- 中古機や仕入商品売上
- 修理売上など



高所作業車

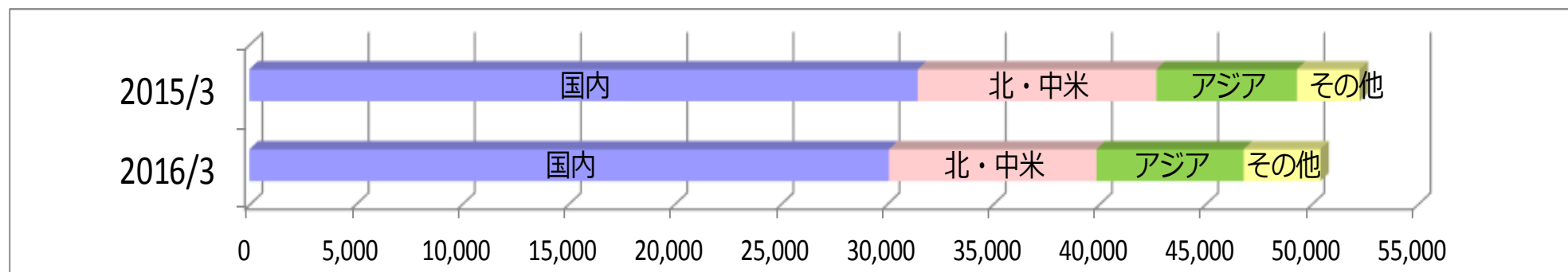


負荷試験装置

## 地域別売上高の動向(連結)

(単位:百万円)

		2015年3月期		2016年3月期		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		52,267	100%	50,419	100%	△1,848	△3.5%
国内売上高		31,468	60.2%	30,115	59.7%	△1,353	△4.3%
海外売上高		20,799	39.8%	20,304	40.3%	△495	△2.4%
地域別	北・中米	11,234	21.5%	9,776	19.4%	△1,458	△13.0%
	アジア	6,619	12.7%	6,921	13.7%	302	4.6%
	その他	2,945	5.6%	3,606	7.2%	661	22.4%



# 営業利益増減の要因分析

## 営業利益減

- ・ 原価率、販管費比率ともに上昇。

(単位:百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	前期比増減
営業利益	5,348	4,097	△ 1,251
営業利益率	10.2%	8.1%	△2.1ポイント

	2015年3月期	2016年3月期	前期比増減
売上総利益率	25.1%	24.1%	△ 1.0ポイント
売上高販管費比率	14.9%	16.0%	1.1ポイント
売上高営業利益率	10.2%	8.1%	△ 2.1ポイント

- ・ 売上総利益率は、高収益製品の出荷減少やベトナム工場の固定費増加などで低下。
- ・ 売上高販管費比率は、人件費等の増加のほか、諸引当金の戻入等が前期に計上されていたこともあり、対前期比で上昇。

# 連結貸借対照表

## 概要

1. 流動資産 1,390百万円の増加は、現預金などの増加によるもの。
2. 固定資産 1,721百万円の減少は、投資有価証券の評価減などによるもの。

(単位:百万円)

	2015年3月 期末	2016年3月 期末	前期末比 増減額
流動資産	40,856	42,246	1,390
固定資産	26,468	24,747	△1,721
資産合計	67,324	66,994	△330
流動負債	13,396	12,455	△941
固定負債	4,732	3,726	△1,006
負債合計	18,128	16,181	△1,947
純資産合計	49,195	50,812	1,617
負債純資産合計	67,324	66,994	△330

# 連結キャッシュ・フローの推移

## 概要

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー2,973百万円。減少要因は、売上債権や棚卸資産の増加など。
2. 現金及び現金同等物の残高は969百万円増加。

(単位:百万円)

	2015年3月期	2016年3月期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	5,078	2,973
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,642	△ 775
I + II フリー・キャッシュ・フロー	2,436	2,198
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,788	△ 1,181
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	297	△ 47
V 現金及び現金同等物の増減額	944	969
VI 現金及び現金同等物の期末残高	10,776	11,745

---

# 2017年3月期の見通しと 今後の経営方針

# 2017年3月期予想～連結損益の見通し

## ポイント

1. 売上高は、520億円を予想。
2. 為替レートは110円/ドルを想定。

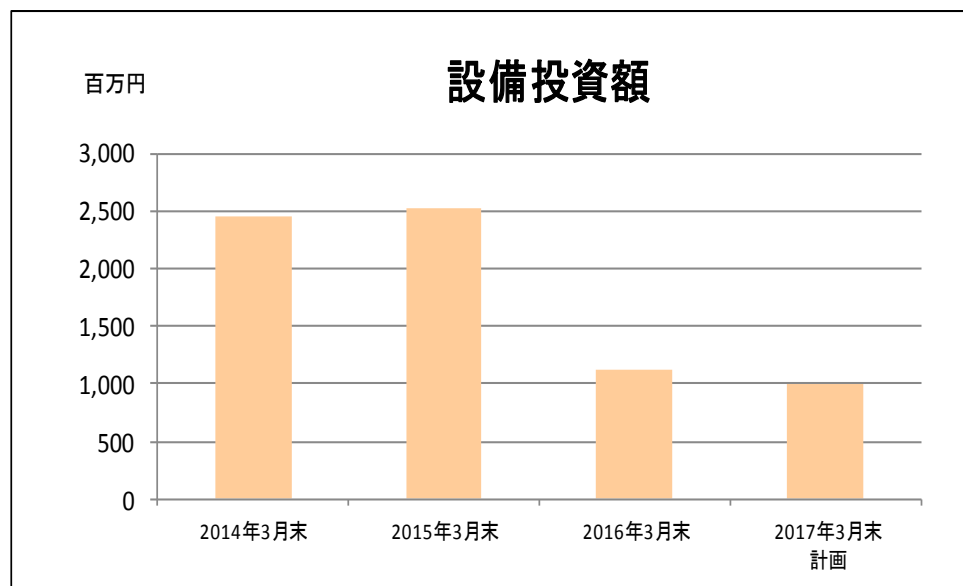
(単位:百万円)

	2016年3月期		2017年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高	50,419	100%	52,000	100%	1,581	3.1%
営業利益	4,097	8.1%	4,300	8.3%	203	5.0%
経常利益	4,494	8.9%	4,600	8.8%	106	2.3%
当期純利益	3,137	6.2%	3,000	5.8%	△137	△4.4%
設備投資	1,125		1,000		△125	△11.1%
減価償却費	1,284		1,250		△34	△2.6%
1株当り当期純利益	146.8円		140.4円		△6.4円	
R O E	6.5%		6.1%		※自己資本は前期末の金額で計算。	
1株当り配当金(円)	30.0円		30.0円			

# 設備投資額の推移

(単位:百万円)

	2014年3月末	2015年3月末	2016年3月末	2017年3月末 計画
設備費	2,453	2,531	1,125	1,000
主な用途	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井機械等 480</li> <li>・西日本発電機 270</li> <li>・ベトナム工場 440</li> <li>・シンガポール 1100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井機械等 440</li> <li>・西日本発電機 160</li> <li>・アメリカ工場 50</li> <li>・ベトナム工場 1630</li> <li>・シンガポール 180</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井機械等 430</li> <li>・西日本発電機 80</li> <li>・ベトナム工場 100</li> <li>・シンガポール 280</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井機械等 500</li> <li>・西日本発電機 100</li> <li>・アメリカ工場 300</li> <li>・その他 100</li> </ul>



デンヨーベトナム



# 製品別売上高の見通し(連結)

## 概況

1. 発電機は、1,406百万円(3.7%)の増加。
2. 溶接機は、200百万円(3.9%)の増加。
3. コンプレッサは、104百万円(9.4%)の減少。

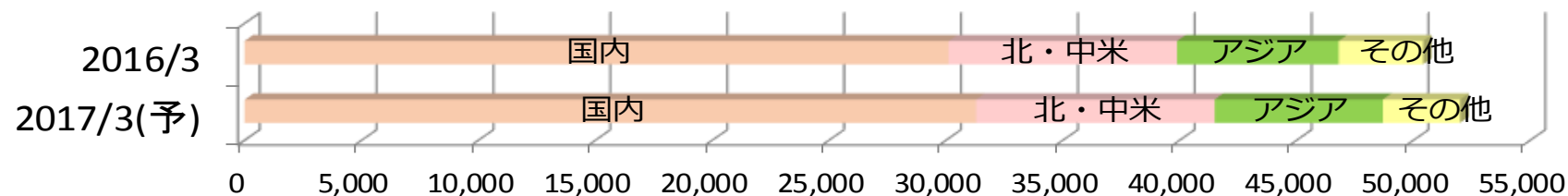
(単位:百万円)

		2016年3月期		2017年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		50,419	100%	52,000	100%	1,581	3.1%
製品別	発電機	38,294	76.0%	39,700	76.3%	1,406	3.7%
	溶接機	5,100	10.1%	5,300	10.2%	200	3.9%
	コンプレッサ	1,104	2.2%	1,000	1.9%	△104	△9.4%
	その他	5,919	11.7%	6,000	11.5%	81	1.4%

# 地域別売上高の見通し(連結)

(単位:百万円)

		2016年3月期		2017年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		50,419	100%	52,000	100%	1,581	3.1%
国内売上高		30,115	59.7%	31,300	60.2%	1,185	3.9%
海外売上高		20,304	40.3%	20,700	39.8%	396	2.0%
地域別	北・中米	9,776	19.4%	10,200	19.6%	424	4.3%
	アジア	6,921	13.7%	7,200	13.8%	279	4.0%
	その他	3,606	7.2%	3,300	6.3%	△306	△8.5%



# 営業利益予想の内容

## 営業利益増

営業利益率は若干上昇、営業利益は203百万円の増加と予想。

(単位:百万円)

	2016年3月期	2017年3月期(予)	前期比
営業利益	4,097	4,300	203
営業利益率	8.1%	8.3%	0.2ポイント

	2016年3月期	2017年3月期(予)	前期比増減
売上総利益率	24.1%	24.0%	△0.1ポイント
売上高販管費比率	16.0%	15.8%	△0.2ポイント
売上高営業利益率	8.1%	8.3%	0.2ポイント

売上総利益率は、前期並みと見込む。

売上高販管費比率は、売上増加に伴う若干の低下を見込む。

# 今後の経営方針

**経営理念:** パワーソースをテーマに安全性・経済性・環境性重視の製品造りに徹し、「**三者の得**」を追求。  
(使う人、売る人、造る人が各々利益を享受すること。)



## 経営戦略:

- ①パワーソースのパイオニアとして、技術力と販売のネットワークを駆使し、高性能発電機マーケットのナンバーワンを目指す。
- ②発電機の周辺事業の拡充。
- ③新規関連事業への参入。

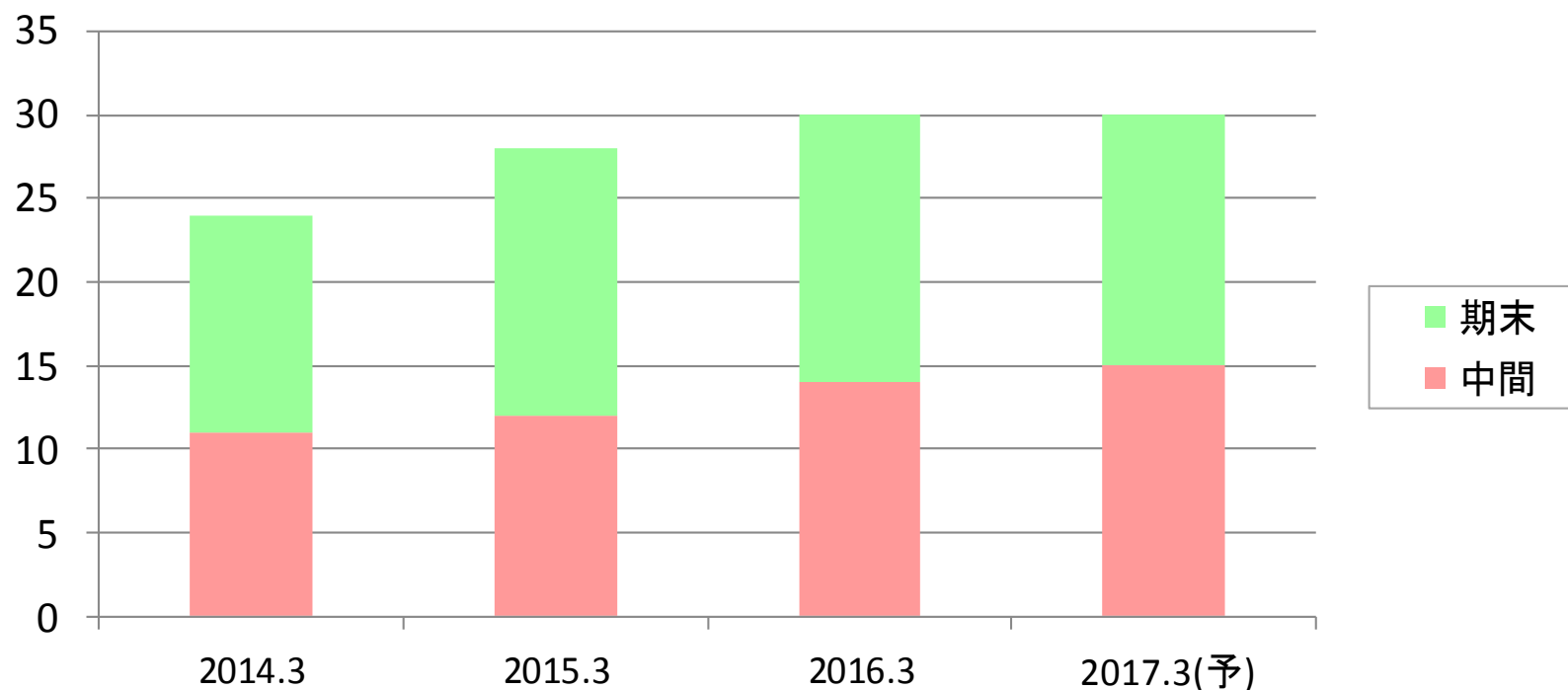
## 目標経営指標:

- ①ROE 8%以上 (2016.3期 6.5%)
- ②売上高経常利益率 12%以上 (同 8.9%)

# 利益配分の方針

利益配分：収益力の向上と財務体質の強化に努めながら、株主の皆様に対する利益の還元を充実していくことが重要と認識し、業績や配当性向などを総合的に勘案した成果配分を実施

(配当金の推移 15年3月期 28円 ⇒ 16年3月期 30円 ⇒ 17年3月期 30円予想)



# 今後の事業戦略

## ポイント

- ・ 建設関連以外の市場向け製品の拡充
- ・ 環境対応型製品の開発
- ・ 海外事業戦略の強化



エコベース発電機



防災用発電機

建設関連以外の  
市場向け製品の拡充



防災用・非常用発電機事業の拡充  
電源車の拡販

環境対応型製品の開発



エコベース(環境保護ベース) 標準  
装備の発電機・溶接機・コンプレッ  
サをシリーズ化し、環境対応へ貢献

海外事業戦略の強化



- ・ アメリカ、アジア、欧州市場の  
バランスの取れた販売
- ・ 旺盛なアジア市場に対応すべく  
ベトナム工場で発電機を製造

# 見通しに関する注意事項

---

この資料には、2016年5月12日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれています。  
今後の経済変動、競合状況などにより、実際の業績が予測と大幅に異なる可能性があります。

あくまでも、情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。  
投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。

当社のIRに関するお問い合わせ先

経営企画部 後藤

電話：03-6861-1178

FAX：03-6861-1185

---

# 參考資料



# 当社の概要

## エンジン発電機、エンジン溶接機など野外パワースーツのトップメーカー

沿革： 昭和23年7月2日 「日本電機溶接機材株式会社」として設立  
昭和34年 我が国初のエンジン溶接機を開発、発売  
昭和36年 エンジン発電機の生産、販売開始  
昭和41年 防音型開発  
デンヨー株式会社に社名変更  
昭和58年 東証二部上場  
平成12年 東証一部上場

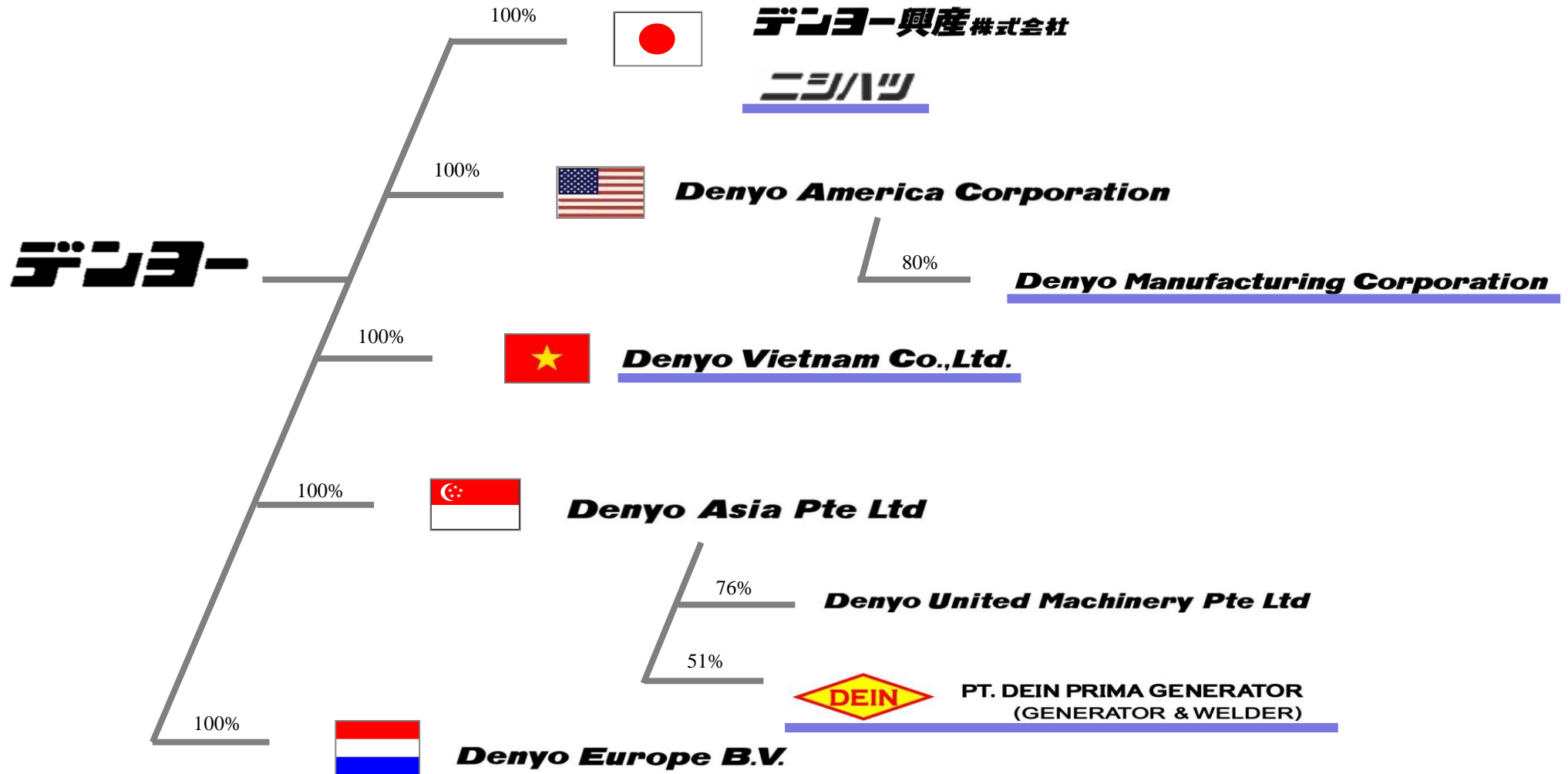
● 会社規模など（2016/3期・連結ベース）  
(単位：百万円)

売上高	50,419
うち海外売上高	20,304
経常利益	4,494
当期純利益	3,137
総資産	66,994
純資産	50,812
時価総額（3/31時点）	26,494
従業員数	1,165人



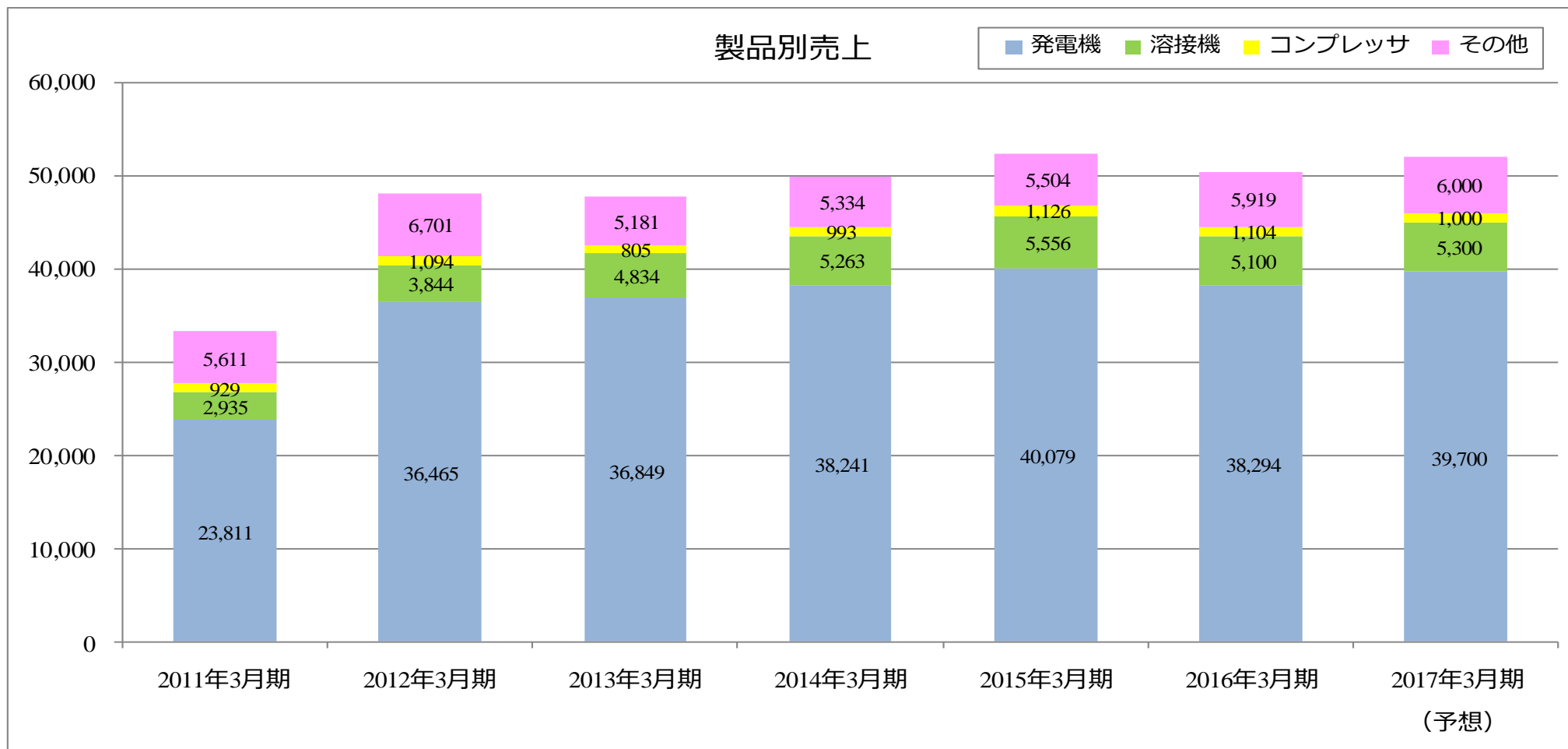
本社（日本橋堀留町）

# グループ会社

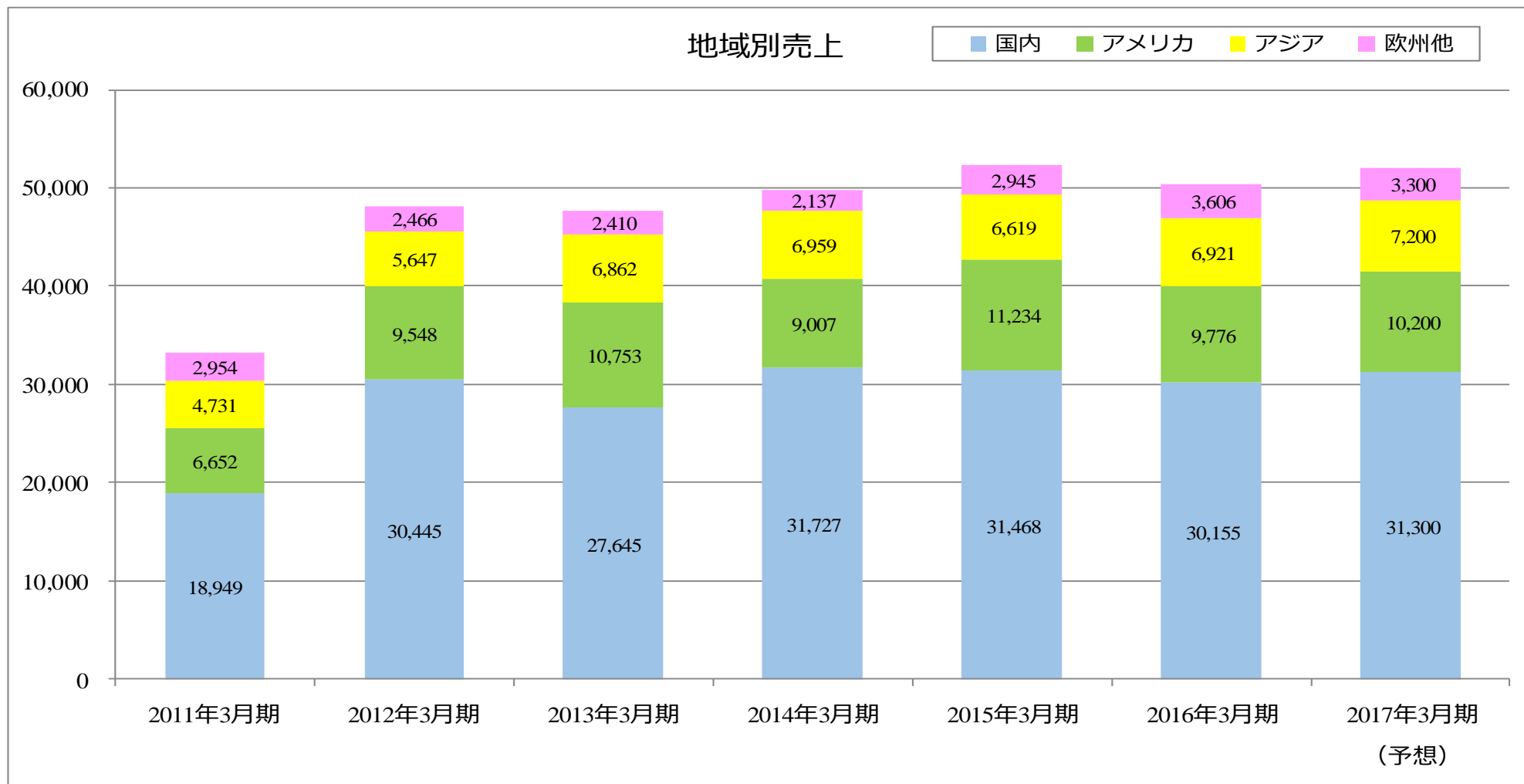


※1.この他に持分法適用の関連会社「新日本建販株」(出資比率15.7%)があります。  
2.下線の引いてある会社は製造会社となります。

# 製品別推移と予想



# 地域別推移と予想



# 過去30年間の業績の推移

